

学校の勉強や受験勉強は社会に出て役に立つのか、
就職や仕事に役に立つのか、人生に役に立つのか
—勉強する意味を考えてみよう—

開倫塾

塾長 林明夫

Q：何のために学校で学ぶのか、何のために受験勉強をするのか、学ぶ意味や大切さがあまりよくわかりません。

A：(林明夫。以下省略)自分が今していることの意味や大切さがあまりよくわからないのはつらいですね。もしかしたら、本当は学校の勉強や受験勉強などしたくないのに無理やりしている・させられているようで、毎日が空(むな)しく感じられるのかも知れませんね。ただ、ちょっと変わっているかもしれませんが、今まで私は、学習塾の仕事だけでなく、マニーという手術用縫合針製造の会社の社外取締役をしたり、特別養護老人ホームの理事をしたり、栃木刑務所に受刑者の学力支援に行ったり、宇都宮大学大学院の工学研究科で客員教授をしたり、栃木県の社会教育委員をしたりしながら、学ぶことの意味を考えてきました。また、経済同友会という経済団体で、教育や働くことの意味を20年以上議論したり、海外の会議や視察にも頻繁に出かけたりして、考え続けてきました。そこで、皆さんとは少し異なった見方かもしれませんが、私の考えを聞いていただけますか。

Q：はい。塾長は随分いろいろなことをしているんですね。

A：(1)一人ひとりの一生はもちろんのこと、その国の運命までも学校での教育内容で決まると言われるくらい、学校での教育はつまり、学校での勉強は役に立つと私は考えます。

(2)ところで、先週、経済同友会からの派遣講師として東京都墨田区立吾嬬第二中学校に出張授業に行かせていただいたときに、中学2年生の皆様は何のために学ぶのかをお聞きしました。ある中学生が「選択肢のある人生を歩むため」と答えて下さいました。それを聞き、私は素晴らしい考えだと感激しました。

(3)私も、何のために学ぶのかと尋ねられたら、選択肢のある人生を目指すためと答えると思います。それ以外に歩む道はないという場合も多いかもしれませんが、どのような生き方をするかを考える場合に、選択肢は多ければ多いほどよい。贅沢かも知れませんが、選べる道は1つだけでなく、選択肢が多ければ多いほど、多様であればあるほど、豊かな人生であると私は考えます。様々な選択肢の中から自分に一番合った1つものを選ぶことが、豊かな人生と私は考えます。

(4)そのためには、学校での勉強を気の済むまで行い、試験でよい点を取り、確かな学力を身に付けなければなりません。選択肢を増やすためには、学校での勉強だけでは足りないことも多いので、自分の力で新しいことに挑戦する、つまり今まで勉強したことがないことを学ぶ能力を学校時代に身に付けることも大事です。学び方を学ぶ能力を身に付けることも、学校での勉強の大事な内容の1つです。

Q：定期テストのための勉強や入学試験のための受験勉強は、世の中に出て役に立つのですか。

A：(1)今まで学校で勉強した範囲をしっかりと身に付ける、つまり「定着」させるために非常に役に立ちます。

(2)テストで満点を取る人は、教科書や副教材、授業中に取ったノートの内容をスミからスミまでうんなるほどよく「理解」しています。

(3)また、音読練習や書き取り練習をして、スミからスミまで暗記しています。学校の教科書や学校で使う問題集の練習問題や計算問題は、うんなるほど十分に理解した上で何回もやり直し、問題を見た瞬間にパツ、パツと正解を出すことができます。

(4)しっかりとテスト勉強した内容は、学校を出たあとに時々勉強し直せば、一生忘れることがない程にまでなります。定期テストや入学試験がなければ、授業を聞いて一度はうんなるほど「理解」したことでも、アツという間に忘れてしまうことが多いようです。

(5)試験に合格しなければ手に入らない資格や、就くことのできない職業は山ほどあります。試験に合格すれば資格が取れ、その資格を用いた活動をすることができますし、職業に就くこともできます。合格すれば、人生の選択肢をどんどん増やすこともできます。

(6)入学試験についていえば、よく勉強して成績(つまり偏差値)が高ければ高いほど合格できる学校は多いと言えます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：(1)1つ1つの科目がどのように世の中に出て役に立つか、仕事に役に立つか、これから少しずつ皆様にお伝えいたしますが、皆様も自分のこととしてよく考えて下さいね。

(2)学力の高い人は本をよく読み、読書による思慮深さを身に付けています。また、新聞をよく読み、自分で考える力、批判的思考能力を身に付けています。

本や新聞をよく読む習慣も今の学校を卒業するまでに身に付けて下さいね。

－ 2010年6月18日記－